

「作って走らせよう！ワイルドミニ四駆 in さんべ」

1 趣 旨

- ・家族に体験活動プログラムを提供することで、家族の絆を深めるとともに、「早寝早起き朝ごはん」をはじめとした基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。
- ・活動を通して、「ものづくり」の楽しさ、つくったもので遊ぶ楽しさを体験することで、体験活動への興味関心につなげる。

2 事業の概要

- (1) 期 日 平成31年2月23日(土)～ 2月24日(日)【1泊2日】
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家とその周辺
- (3) 協 力 地球堂模型
- (4) 対 象 小学生とその家族
- (5) 参加者 84名(29家族) ※募集70名(30家族程度)
- (6) 日程・内容

2/23 (土)	13:30	14:00	14:30	15:30			16:30	17:10	17:30	19:00	20:30		22:30
	入 所	は じ め の 会	オリエンテーション	I これがワイルドミニ四駆！！ ～ワイルドミニ四駆を知り、作ってみよう～	II ワイルドミニ四駆を走らせてみよう	休 憩	夕 べ の つ ど い	夕 食 ・ 入 浴 ・ 休 憩	III 選択活動 ①ワイルドミニ四駆コース体験 ②天体観察(サヒメル) ③自主活動 ・カブラ ・所内でゆっくり など		就 寝 準 備	就 寝	
2/24 (日)	6:30	7:00	7:40	9:00	9:30	～			11:30	11:50	退所後は…		
	起 床	朝 の つ ど い	清 掃	朝 食 ・ 休 憩	退 所 点 検	IV さんべ・ダカールラリー！！ ～ワイルドミニ四駆のコースを作ってみみんなで走らせよう～	お わ り の 会	解 散			・交流の家のプログラム体験(カブラ等) ・三瓶自然館サヒメル見学(割引券あり) ・さんべ温泉(割引券あり) ・世界遺産石見銀山見学 ・早めに帰宅 などなどご都合に合わせてプランニング		

3 事業の特色

① プログラムデザインと企画のポイント

本事業は、ワイルドミニ四駆を作る「ものづくりの楽しさ」と、工夫して様々な場所を走らせて遊ぶ「工夫する楽しさ」を味わうことができる内容となっている。教材のワイルドミニ四駆は、砂利道など凹凸のある場所や、小さな段差がある場所でも力強く走ることができるのが特徴である。1日目は室内で、コースを作るなど工夫しながら遊び、2日目は屋外のコースを走破する達成感と、雄大な自然の中で走らせる開放感を味わうことができるようにした。

② 運営のポイント

室内で遊ぶ時には、いくつかコースを作ったり、遊び方を紹介したりした他、ホワイトボードを「情報共有板」として、子供たちが自由な発想で考えた遊び方などを自由に書き込み、みんなで遊び方を共有できるようにした。屋外で遊ぶ時には、みんなでミニ四駆をグラウンドまでの山道を走らせた後、家族ごとに自由なコースを選んで走らせることで、雄大な自然のフィールドでもいっしょに遊ぶことができるようにした。

③ 広報のポイント

同日開催の他の教育事業と合同でチラシを作成し、1枚で同時に2事業の広報を行った。これにより、職員や広報先の負担の軽減、広報費の削減を図った。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	89	11	0	0
プログラム	82	18	0	0
運営	86	14	0	0
職員の対応	93	7	0	0

(2) 参加者の声

- ・子供が「帰るのがつらい…」と涙するほど楽しかったと言っていた。
- ・子供が楽しめる、ミニ四駆づくりと規則正しい生活ができてよかった。
- ・子供たちにとって、自分のことは自分で考えて行動するよい経験になった。

5 成果と課題

《成果》

- ・遊び方を限定せず、自由な発想で遊べるようにしたことに加え、遊んだ後の片付けまで意識して活動するようにしたこと、子供たちは主体的・自主的に活動することができた。
- ・「情報共有板」で、子供が考えた遊びを共有することができた。また、屋外では、参加者は家族でコースになりそうな場所を探し、様々な場所で走らせていた。事業終了後も、工夫しながら活動を楽しむ姿が見られ、継続的に活動を楽しむきっかけづくりができた。

《課題》

- ・教材のワイルドミニ四駆は、一部予定していた車種の変更があったことと、募集締め切りから本番までの期間が短く、台数の確定が遅くなったことがあり、調整が大変であった。今後、同様な事業を実施する際には、地球堂模型とより一層連携し、教材の確保をするとともに、募集締め切りを早め、余裕を持って台数の調整ができると良い。
- ・定員の70名に対し、3倍の210名の応募があり、抽選を行った結果、参加を楽しみにしていた多くの家族が落選となった。今回の落選者を対象に、次年度、同内容の事業を実施することが可能であるか検討したい。



ワイルドミニ四駆は比較的作りやすく、短時間で完成した。



ワイルドミニ四駆複数台で荷台を動かすことができるかチャレンジ。



段ボールを使った自作のコースを走らせる。



「情報共有板」には様々な遊びなどが書き込まれ、みんなで共有した。



「さんべ・ダカールラリー!!」では、山道をワイルドに走破した。



山道、砂利道、坂道、側溝など、様々な場所で走らせて楽しんだ。

(担当：企画指導専門職 辻田 渉)